

「名称」 横堀岩戸神楽  
(波野村)

「対象者名」 横堀岩戸神楽保存会  
(代表者・後藤守外二十一名)

「民俗芸能概要」  
横堀岩戸神楽は今から百五十三年前の文政六年に始まり、演舞は十三座からなっており五時間に亘って演舞される。部落内の神社祭をはじめ村内外の各種大祭や行事の一環として奉納されていて、地域住民の親睦と融和、更には心の糧として寄与している。現在、保存会員は二十五名で殆んどが農業者で年齢十八歳〜五十五歳となっている。



横堀岩戸神楽(波野村)

「名称」 神楽獅子舞  
(飽田町)

「対象者名」 無田口神楽獅子舞保存会  
(代表者・木下忠臣外九名)

「民俗芸能概要」  
神楽獅子舞は弘化三年の発祥と伝えられ、以来百三十年に亘って先祖から伝統ある文化として受けつがれ、無田口部落の阿蘇神社の秋の大祭(十月十七日)に五穀豊穡を祈願して舞われている。県下でも独特の獅子舞として保存されており、獅子二頭が笛、太鼓の伴奏に合わせて九名一組で構成されている。



神楽獅子舞(飽田町)

「名称」 市原祇園社獅子舞  
(南小国町)

「対象者名」 市原祇園社獅子舞保存会  
(代表者・大野木範男外十名)

「民俗芸能概要」  
市原祇園社獅子舞は京都の系統と思われるが発祥の時期は不明である。毎年七月二十二日が夜通し、七月二十三日が本祭を行っており特に本祭りの日は各戸に獅子の舞込むのを心待ちしており、地区住民は無病厄除の神として信仰も深く獅子舞に心から親しんでいる。獅子舞は男獅子、女獅子とあり山笠の前を舞う荒獅子である。



市原祇園社獅子舞(南小国町)

「名称」 臼太鼓踊り  
(深田村)

「対象者名」 庄屋臼太鼓踊り保存会  
(代表者・高田隆男外三十名)

「民俗芸能概要」  
庄屋臼太鼓踊りはその発祥、由来については信頼される文書記録はないが、旧藩主相良公武道奨励の目的を以て始められたものと言われている。踊りの表現する意味は源平合戦であると言われ踊る人は頭一名、脇二名、関二名で鐘打ちが頭に一名、脇に一名、関に一名、で構成されており激しい踊りであると共にリズムがあつて勇壮である。



臼太鼓踊り(深田村)

「名称」 九州相良古代踊り  
(免田町)

「対象者名」 九州相良古代踊り保存会  
(代表者・岡村豊外百二十九名)

「民俗芸能概要」  
九州相良古代踊りは旧藩主相良公が武道奨励のために始められたものといわれ、踊りは普通の役踊り(太鼓踊り)のほかにグワングワラ踊りといって道行きから三列縦隊となりカネを中にして左右に別れ第一番の踊り、第二番の踊り、第三番目に羅生門のうたを歌いながら輪になり第四番目の踊りを踊り道行で終る。総勢五十名で地域の地蔵祭り他各種行事に出演している。



九州相良古代踊り(免田町)

「名称」 水俣棒踊(水俣市)

「対象者名」 水俣棒踊り保存会  
(代表者・山田斉外百名)



水俣棒踊(水俣市)

「民俗芸能概要」

水俣棒踊りは、天正十二年島津義久が島原に出陣の折、その武將川上左京が袋浦から船出したのを地元農民がこの踊りで士気を鼓舞したと言われている。踊りは囃子(歌手)三名、踊り手十八名で構成され、郷土芸能として各種の記念行事等に出演している。なお水俣棒踊りは昭和四十九年に水俣市の文化財に指定され、踊子の後継者は地元袋中学校で育成している。

「名称」 高畑年祢神社御田植の神事(蘇陽町)

「対象者名」 高畑年祢神社御田植踊り保存会  
(代表者・佐藤忍外二十名)

「民俗芸能概要」  
高畑年祢神社御田植の神事は、天正年間頃に日向東郷町から里楽師を招いて習練したのが始まりと言われ、踊りは、大太鼓、笛、カネに合わせ「あぜ切り」から始まり昔ながらの田植が行われる。昨年五月保存会を設立し高畑年祢神社の氏子で構成されている。毎年、豊年祭り等に祈願奉納している。



高畑年祢神社御田植の神事(蘇陽町)

「名称」 もんつき唄(牛深市)

「対象者名」 下平民謡(もんつき唄)保存会  
(代表者・村崎為之 外九名)

「民俗芸能概要」  
もんつき唄(もんつき動作を含む)は天保八年頃下平の沖合四キロに浮ぶ無人島下馬刀島で労働歌として生まれたもので、汗のにじみでるような労働歌であり生活の唄である。六人が唄いながらかわりばんこにトン、トン、ともみをつきなが



もんつき唄(牛深市)

らもみのつきあがるまで唄い続けられて行く。もんつき動作は振り付けた踊りではなく実働の姿のままである。